

講義名	特別講義（経営管理）			授業形態	
担当教員	井上 芳郎	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

本特別講義では、経営管理分野の知識・能力を持つために必要な課題を選定し、その課題に係る文献レビューとディスカッション・講評を行うことを通じて、受講者がこの分野の研究を遂行していくために求められる基礎力を形成することを旨とする。すなわち、経営学部の大学院生全員が知っておべき経営管理分野の体系化といえよう。以上を通じて、受講生の高度な専門知識の蓄積と研究能力の養成に寄与する。

到達目標

(1) 知識・能力を身につける。
 本大学院特別講義では、大学院レベルで体系的・包括的にこの学問分野を学ぶ。経済学、社会学、心理学の分野の選定から経営学を総合的に捉え、この分野の奥深さと幅広さを紹介する。そのために、古典的な文献と代表的な文献のみならず、最新の文献も取り入れ、経営管理分野に関する知っておべき知識や理論パラダイムを習得し、履修生の高度な研究能力の形成に寄与できるようになる。
 (2) 読書力・文章力を向上させる。
 履修者は経営管理の特論課題を毎回事前に課題を熟読したうえ、概要のまとめ・レビュー・問題点と解決案といった3つの内容が入ったレポートに基づき、ローテーションで発表する。教員側は詳細な解説と評価を加え、全員の考え・判断・経緯・討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで、履修者は毎回知識と能力が身につけることを実感でき、読書力と文章力の向上に寄与し、論理的な学術研究論文や実証的な企画調査報告書を作成できるようになる。
 (3) 主体的な学習態度を養成する。
 履修生は、能動的に主体的に知識を吸収・理解・獲得・運用する能力を養成できるようになる。高度な研究能力と実践的な課題解決能力を有しており、組織経営参画の際に理論分析と実践運用の複眼的な視角から課題発見と課題解決を行えるようになる。

提出課題

1. 毎回のテーマについて、A4で2枚（2000字程度）のレポートを全員が提出する。ただし輪番報告者は2頁を提出する。
2. レポートは、概要まとめ（半分紙幅）、感想コメント（1/4紙幅）、課題と解決案（1/4紙幅）。
3. 提出は、講義前日とする。具体的には、水曜日の23時59分までに、メール添付で提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回、導入、解題、解説と振り返りを行う。

評価の基準

期末試験と期末レポートは実施しない。
 1. 授業での貢献（出席、発表、ディスカッションへの参画）。成績の割合は全体の50%とする。
 2. 毎回提出するレポート。成績の割合は全体の50%とする。
 以上をもって、総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

1. 大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安：輪番報告者は週6時間、参加者は毎4時間。
2. 古典を運用する。学んだ古典文献を現実社会に積極的に運用・分析してみる。
3. 能動的な集団学習。相互の啓発、知的な刺激が大事である。
4. 教員と履修者は毎回、配布必須資料のほかに、適宜、関連する文献や情報・課題をも教室までに持ち込み、全員発言討論型・参加参画型の授業を行っていく。

教科書

『世界標準の経営理論』（820頁）	入山章栄	ダイヤモンド社	3,190	9784478109571
-------------------	------	---------	-------	---------------

参考図書

その他

1. ロビンズら『マネジメント入門 グローバル経営のための理論と実践』（高木晴夫監訳）ダイヤモンド社（582頁）、2007年。
2. ロビンズ（2007）『組織行動のマネジメント』（高木晴夫訳）ダイヤモンド社（507頁。2017年第13刷）。
3. ミンツバーク『戦略サファリ（第2版）』（斎藤嘉則監訳）東洋経済新報社（488頁。2013年1月）

授業計画

1. 経営理論導入・SCP分析・競争要因分析SF（0・2章 65頁）。
2. RBV・ポーターとバーニーの競争・情報の経済学（3・5章 49頁）。
3. エージェント理論・取引費用理論・ゲーム理論（6・8章 54頁）。
4. ゲーム理論・リアルオプション・企業行動理論（9・11章 57頁）。
5. 両利き経営戦略・組織の記憶（12・14章 47頁）。
6. 知識創造理論・進化理論・DC（15・17章 47頁）。
7. リーダーシップ理論・モチベーション理論・認知バイアス理論（18・20章 62頁）。
8. 意思決定理論・感情理論・センスメイキング理論（21・23章 58頁）。
9. 理め込み理論・結びつき理論・構造穴理論（24・26章 47頁）。
10. 社会資本理論・社会学ベースの制度理論・資源依存理論（27・29章 56頁）。
11. エコロジー理論・エコロジーベースの進化理論・レッドクイーン理論（30・32章 52頁）。
12. 戦略イノベーション・組織行動・ガバナンス理論（33・35章 62頁）。
13. 国際経営理論・起業家理論・企業組織と成長（36・38章 55頁）。
14. ビジネスと経営と経営理論の組み立て方（39・40章 43頁）。
15. 世界標準の実証分析・更なる視座（41・終章 40頁）。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 読書と思考・討論を習慣に付けてください。
 大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安：輪番報告者は週6時間、参加者は毎4時間。
1. 毎回事前に、指定されたプリント資料の一部または全部を勉強・熟読。
 2. 毎回の予習時間は、授業時間（90分＝2時間相当）の4～6時間くらいにしてください。毎回の復習時間も、4～6時間くらいにしてください。
 3. 予習の一例として、初回目の講義では、「経営管理の理論体系を考え、授業中に各自3分間ほど発言できる」というような質問に答えられるように、予習準備をしてください。復習の一例として、「今回・前回の講義の内容やキーワードについてしっかり理解して、場合によって自己調べ・勉強もしましょう。どうしても分からない場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください」。
 4. 教員とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1. 批判的な思考能力を身につけ、論理的に推論・演繹・帰納するアカデミック素養を養成できる。
2. 企業や組織の経営管理の仕組みを自ら主体的な立場から理解して、身につけた知識・能力等を生かす。
3. 組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかけ、論理的かつ実証的に組織の経営管理の企画と実施行動に参画能力を持つことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

発表、ディスカッションを通して、双方向授業を実施します。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 大学卒業後は、製薬会社、機械工具製造会社で勤務する中で経営学に対する興味を持ち、いまから三十数年前に、経済産業大臣が認定する「中小企業診断士」という資格を取得しました。その後経営コンサルティング会社に転職し、主として中小企業の経営コンサルティング業務に従事しました。そのなかで、社会人大学院でも学びました。2002年に本学教員となりました。

備考

全員、事前に資料と心構えを準備したうえで、授業に臨んでください。